

目次

学習関連

提言 2-1	博士後期課程の文系教養科目改善.....	1
提言 2-2	研究室所属の時期について.....	1
提言 2-3	学位論文の閲覧が可能になるシステムの構築.....	2
提言 2-4	クラス間の成績格差の是正.....	2
提言 2-5	クォーター間の休みの導入.....	3
提言 2-6	学士課程向けの副専攻プログラム.....	3
提言 2-7	オンライン授業における登録聴講制度の導入.....	4
提言 2-8	教員の英語能力引き上げ.....	4
提言 2-9	授業での積極的な翻訳アプリの使用.....	5
提言 2-10	英語以外の言語能力試験の受験機会の促進.....	5

施設関連

提言 3-1	弁当持参者スペースの確保.....	6
提言 3-2	非公認サークルなどの活動場所.....	6
提言 3-3	喫煙所環境改善・キャンパス内禁煙の推進.....	7

サービス関連

提言 4-1	東工大メールニュースのパーソナライズ化.....	7
提言 4-2	東工大ポータルにおける不便な点と対策.....	7
提言 4-3	OCW における利便性改善.....	8
提言 4-4	教務 Web システムの改善.....	9
提言 4-5	サークル施設利用予約の方法改善.....	9
提言 4-6	T2SCHOLA の機能改善要望.....	10
提言 4-7	東工大公式アプリの開発.....	10
提言 4-8	遺失物管理のオンライン統一システムの構築.....	10
提言 4-9	トレーニング施設等の情報集約サイトの開設.....	10
提言 4-10	卒業・修了に必要な単位を確認できるシステム作成.....	11
提言 4-11	電子書籍の蔵書増加と利用促進について.....	11
提言 4-12	図書の新着・返却サービスの継続と拡充.....	12
提言 4-13	生協での決済方法の多様化.....	12
提言 4-14	留学手続きのペーパーレス化.....	12

学勢調査 2020 大学の対応

提言 2-1 博士後期課程の文系教養科目改善

提言

1. 博士後期課程学生に文系教養科目についてのアンケート（実施形態や時間、扱う内容等）を実施して、博士後期課程学生の多忙な生活、要望を把握すること。
2. 600 番台の文系教養科目の種類を増やすこと。その際、学生の意見をもとに、開講する科目の内容、開講形態を決定すること。
3. 授業学修アンケートや、大学の実施しているアンケート調査、インタビュー調査の存在と効力をより具体的に広報すること。

対応策・実施方法

【提言の1点目および3点目について】

全体で1000名を優に超える博士課程学生に対して、新規にアンケート調査を作成・実施して分析するのは、作業負担の大きさを考えると現実的ではない。現在実施中の授業学修アンケートを授業改善にいっそう活用することで代替したい。また、授業学修アンケートの結果だけでなく、各回の授業後に記入してもらっている出席フォームの「授業への要望欄」も、担当者はもれなく目を通し、次回以降の授業改善に役立てている。

【提言の2点目について】

現在、改善のためのワーキンググループを設置し、検討中である。

提言 2-2 研究室所属の時期について

提言

1. 各系は、希望者については 2 年次から研究室活動に体験参加ができるような制度を設けること。
2. 各系は、希望者については 3 年次から研究室に所属できるような制度を設けること。

対応策・実施方法

【2年次からの研究室活動体験参加について】

2年次においては、みなさんが系所属した直後でもあり、200番台科目を中心とした授業科目の履修により、ご自身の専門分野の基礎知識の修得に注力いただきたいと思います。研究室活動を体験するためには、実験科目の履修によって基本的な研究の方法を身に付け、安全管理に関する基礎知識を身に付けていただくという事前準備が重要であると考えます。そのため、研究室体験を行う授業科目「研究プロジェクト」は、3年次の300番台科目として設置されています。

【希望者の3年次からの研究室所属について】

一般的には、4年次の学士特定課題研究（特課研）の開始時に研究室に所属しますが、各系において特課研を履修するための要件が設定されている理由の1つは、研究室に所属した学生が円滑に研究活動を開始できるように、また安全な研究室運営に支障をきたさないように、研究室所属前に、300番台までの専門科目の授業履修により、研究遂行に必要な知識と教養、語学力および表現力を十分に身に付けていただいていることを確認する必要があるからです。

ただし、特に研究への熱意があり、博士後期課程への進学意欲がある方に対しては、特別に

学士課程2年次後学期から研究を開始し、通常より早く希望研究室を決められるB2D特別選抜に登録するという道がありますので、是非チャレンジしてください。

なお、研究室所属の適切な時期は、3年次からが良いというご意見と、4年次からが良いというご意見の両方があるため、「希望者に限って3年次から所属できる制度」の設置を提言いただいたと理解しています。研究室所属の決定方法と運用は、全学ルールではなく、各系において独自に定めていますが、平等性を重視し、多くの系では、学生の志望に基づき、成績順に決定しているようです。各研究室のキャパシティにも限度がありますので、希望者だけ先に3年次から研究室所属できるような制度導入の是非、運用の可能性については、系毎に個別に検討いただくものと考えます。

提言2-3 学位論文の閲覧が可能になるシステムの構築

提言

1. 現在、博士論文については T2R2 で公表が進んでいる状況であり、そこに現在各部署での対応になっている学士論文・修士論文の全文もしくは要旨を T2R2 に公表すること。
2. 全学またはコースごとのサイトで、学内だけでなく学外にも向けての博士論文・修士論文の題名を大学HP 等へ掲載すること

対応策・実施方法

- ・ 博士論文の公表については、研究者として自立して研究活動を行うことができる能力を証明する博士論文の質を保証する目的で、公表することにより、各大学が授与する論文の質を相互に保証し合う仕組み作りのため、「学位規則」で義務付けられており、本学では T2R2で博士論文の題目を含め公表を行っております。
- ・ 学士特定課題研究及び修士論文については、公表を前提に作成されておりません。

提言2-4 クラス間の成績格差の是正

提言

1. OCW で学内向けに匿名化処理を施した成績の度数分布表や各種統計量(平均、標準偏差など)を公開すること。
2. 授業評価アンケートの集計結果をシラバスと共に OCW で学内向けに掲載すること。

対応策・実施方法

【OCW上での成績分布の公開】

「学勢調査2018」でも回答したように、「履修評価は絶対評価であると考えています。成績分布の公開により、相対的な物差しで履修を評価してしまうことや、安易な授業科目選択となることを危惧しています。」ことには変わりありません。したがって、現段階では、ご要望の公開は難しいと考えます。

【授業学修アンケートのOCWへの掲載】

授業学修アンケートの集計結果については、公開内容及び公開方法も含め、慎重に検討して参ります。

提言 2-5 クォーター間の休みの導入

提言

1. 第 1 クォーターおよび第 3 クォーター後に 1 週間程度の休みを導入すること

対応策・実施方法

- ・ 来年度以降も、感染状況によって対面授業の実施が困難だと判断される場合には、レポートなどの期末課題による成績評価が継続される可能性はあります。ただし、本学では、アフターコロナの理想的な授業実施形態について検討を行っていますが、当該構想では、対面による授業を基本とした中でのオンライン授業の効果的な導入を想定しているため、現在のような授業形態がデフォルトになるわけではありません。アフターコロナでは、多くの授業科目において、以前のような対面試験による成績評価が復活することが想定されるため、問題の一部は解決するのではないかと考えます。

その前提での回答となりますが、キャンパスミーティングでお伝えしたとおり、授業期間については大学設置基準に、学期あたり15週にわたる期間を単位として行う旨が規定されています。

本学では 2020年度から、1 回あたりの授業時間を100分（1 時限あたりの授業時間を50分）とし、1単位（2単位）の授業科目の授業期間は7回（14回）で運用しています。100分授業になり、回数が減っても1 単位当たりの総授業時間数は減ってはいませんが、これ以上回数を減らすことは、法令上難しいと考えられます。

また、100分授業導入にはいくつかの目的がありますが、重要な目的の1つが、夏休みなどの長期休暇をなるべく長く確保し、学生や教員の皆さんの研究活動や課外活動、留学やインターンシップなどの活動に有効に活用いただきたいということにあります。たとえば前後3、4日間であっても、クォーター休みを確保する代わりに長期休暇を短縮することは、総合的に判断し適切ではないと考えています。

提言 2-6 学士課程向けの副専攻プログラム

提言

1. 現在、主に修士課程学生向けに設けられている副専門学修プログラムと同様のプログラムを、学士課程学生も取れるようにすること。
2. グローバル理工人育成コースや四大学連合・複合領域コースのようなプログラムを副専攻として認め、修了者に証書を発行すること。

対応策・実施方法

- ・ 2016年度から開始した教育改革においては、学士課程の間は、教養科目とのくさび型教育により自身の専門分野の知識をしっかりと身に付けていただきたいこと、またCAPの縛りがあることから、副専門学修プログラムを設定していませんでした。しかし、早い段階から専門分野以外の広範な知識・技能を身に付けることにより、専攻分野を補強する、新たな分野に挑戦し別の強みをつくるなど、学位取得以上の学修機会を提供するため、学士課程にて完結する副専門学修プログラムを、今後長期的に検討していく予定です

す。

- ・ 大学院課程の副専門学修プログラムの必要単位数は16～20単位と設定されているとおり、「副専門」を冠するプログラムとして修了証を発行するからには、専門外の主たる概要や基礎知識を最低限修得している必要があることから、単位修得要件設定など慎重に検討する必要があります。

GSECは、国際性涵養に特化した教育カリキュラムとして確立していること、四大学複合領域コースは、本学だけではなく、四大学の他大学と共同プログラムとして設置されていること、どちらも独自の修了証を発行していることなど、すでに単独プログラムとして確立しているため、今後検討する本学の副専門学修プログラムに組み入れるのではなく、現時点ではその独自性を維持するほうが適切だと考えています。

提言 2-7 オンライン授業における登録聴講制度の導入

提言

1. どのくらいの人数の学生がコロナ前の対面授業で今まで聴講をしたことがあるか、また、ある場合はどのような科目の聴講をしたことがあるのか調査を実施し、需要の把握をすること。
2. 教員に対して、聴講や資料の入手を認められない理由についてのアンケートを実施し、それ以外の状況ではオンライン授業でも聴講ができる制度を作ること。

対応策・実施方法

そもそも各課程の教育課程を編成する授業科目は、履修申告を行い、単位を修得することを前提に提供されています。そのため、単位修得を目的としない、授業科目の聴講及び資料の入手については、履修申告制度と並行して、公式に制度化することは現時点では想定しておりません。ただし、オンライン授業における資料提供に係る法令上の懸念点（例えば、授業目的の著作物の公衆送信の扱い）なども含め、長期的に慎重に検討して参ります。

提言 2-8 教員の英語能力引き上げ

提言

1. 国籍を問わず、教員を対象とした、英語スピーキングと英語スピーチの研修を実施すること。
2. 日本人教員向けに、英語のレベルを評価し、そのレベル評価による英語改善プログラムを導入すること。
3. 本学はこれから教員を採用する際に、その方の英語能力を考慮すること。
4. 外国人教員採用を促進すること。
5. TA 学生と教員の相性を考えること。

対応策・実施方法

大学における授業の英語化を見据え、これまで、教員を対象に英語での指導向上を目的としたセミナーを毎年開催してきました。セミナーの内容については、難易度を2つのレベルに

分け、英語能力に応じて本学向けにカスタマイズしたものとなっており、教育革新センター主催開催のほか、各系の要望に応じた個別セミナーも随時企画・実施してきました。受講した教員からは今後の授業運営に参考になった旨のコメントをいただいています。今後も多くの教員の積極的な参加を促していき、内容をより英語による授業運営能力の改善につながる、充実したものとなるようセミナーを企画・実施していきたいと考えています。

提言 2-9 授業での積極的な翻訳アプリの使用

提言

1. チートシート作成を教員に促すこと。チートシートの作成は TA にも出来る仕事と思われるので、TA に任せてもよいかもしれません。
2. 母語以外の言語で授業を行う教員に対して、授業の構成方法や利用できるツールなどをまとめたガイドラインを作って配布すること。恐らく、母語ではない言語で教える経験が少ない先生が大半なので、先生方をサポートする必要があります。
3. 翻訳アプリのライセンスを購入し、授業で使用できるようにすること。

対応策・実施方法

教育革新センターでは、英語による教授法の向上支援を行っています。また、大学で用意した「大学教員のための教室英語表現300」電子書籍をPCやタブレットにダウンロードして利用している教員もいます。基本的には授業の運用は授業担当教員によって行われており、その判断によるものと考えます。

提言 2-10 英語以外の言語能力試験の受験機会の促進

提言

1. 言語科目の得点が高い生徒に対するさらなる学びのモチベーションとして、また、将来の留学の支援として、言語能力試験の受験機会を提供すること。特にヨーロッパに留学する場合には、目指している国の言語能力の証明書が必要であることが多いので、それを取得するための支援を行うこと。
2. 留学生に対して、日本語能力試験対策のための授業を作ること。
3. 留学生に対して、日本語能力試験を無料で受験できる機会を提供すること
4. 言語科目の点数が高い学生に対して、その言語を使用する国への留学やその国でインターンシップすること等を支援するシステムを作ること。

対応策・実施方法

- ・ グローバル理工人育成コースにおいて、コース所属生に対して、英語テストの受験機会や、オンライン英会話システムなどの機会を提供しており、希望者も多いため抽選となっているが、できる限り増やしていきたい。また、MITとの語学タンドムやオンライン研修での協定校学生との会話セッションなど、英語力を向上できる機会も新たに提供している。
- ・ 外国語セクションの外国語学修相談室で、留学先言語の資格試験の相談に応じている。

また、スペイン語・ドイツ語・中国語・ロシア語・フランス語の集中講座や、留学を見据えた各言語の演習科目を開講して、留学を目指す学生の支援を行っている。

- ・ 日本語能力試験対策のための授業は無いが、対策説明会を開催している。参考書の閲覧、模擬試験の計画もある。
- ・ 日本語能力試験は、現状では自費で受験することとしている。
- ・ 短期語学留学プログラムTASTEは、学生が英語以外の語学力も伸ばせるように、ドイツ語、フランス語、中国語の研修プログラムも提供している。また、英語圏以外の協定校もたくさんあるため、言語科目の点数が高い学生が、得意の語学を活かせる留学先を選ぶことができる。

提言 3-1 弁当持参者スペースの確保

提言

1. 昼の混雑時間外において、食堂内に弁当持ち込みスペースを作ること。ただし、学生にごみの持ち帰りを徹底してもらうために、ごみ廃棄にかかるコスト等の問題を周知させる、などの措置を講じる。
2. 昼食利用に教室が使えることを周知すること。
3. 食堂から、昼食利用可能な教室への食器の持ち出しを可能にすること。

対応策・実施方法

- ・ 混雑時間外の食堂ホール開放は、一定ルールのもと実施することは可能です。
- ・ コロナ禍ということもあり、昼食時に講義室が利用できる旨を周知するようにします。その際に、ゴミ処分を含め利用ルールも併せて周知します。学生の皆さんも、ルールを守って使用していただくよう心がけてください。
- ・ 食器の持ち出しに関しまして：生協では現在、テイクアウト（使い捨て容器）の対応をしております。そちらをご利用ください。税率の問題もありテイクアウトと店内飲食の線引きは明確に行う必要があります。また、食器持ち出しは、未回収食器、散乱などの新たな問題発生も想定されますのでご了承願います。

提言 3-2 非公認サークルなどの活動場所

提言

1. 講義室を利用できるようにすること。
2. さらなる活動の場の追加を検討すること。

対応策・実施方法

- ・ 学生の講義室利用は、公認サークルおよび部活による利用に限定しているため、非公認サークルへの講義室利用は認められません。非公認サークルについては、顧問教員がいないため責任の所在が不明であること、構成員に学外者が多いこと、カルト宗教をかくして活動する可能性があること、事故や事件などトラブルが起きたときに対応が困難であるといったことが、活動場所を提供できない主な理由です。

- ・ 屋外の運動施設や体育館等は、前月の26日から自由に予約が出来る仕組みになっており、空いている枠をうまく利用いただきたい。その他、非公認サークルでも年に数回しかない大きなイベントで、活動しても良いと認められれば、事前の優先予約を受付したりしていますので、まずは企画書等を提出してください。

提言3-3 喫煙所環境改善・キャンパス内禁煙の推進

提言

1. 学生・教職員に対して禁煙化に向けた情報の浸透を図るために、東工大 HP や SNS など喫煙所環境改善（漸次削減ならびに改修、喫煙ボックスやパーテーションの検討等）について積極的に情報発信していくこと。
2. 新規喫煙者の抑制・卒煙者増加のために、全ての学生と教職員に対しては禁煙の重要性の周知、喫煙者に対しては卒煙を促すプログラム（例：卒煙アプリ、保健管理センター産業医による指導等）を紹介すること。

対応策・実施方法

- ・ 禁煙化については世界禁煙デー(5/31) 及び禁煙週間(5/31～6/6)のポスター、禁煙啓発ポスター等を学内各所に掲示し、禁煙意識の醸成を図っている。
また、受動喫煙防止対策についても学生・教職員あてに本学の「受動喫煙防止対策(キャンパス内全面禁煙に向けて)ロードマップ」を示し周知を図ったところ。
- ・ 新入生ガイダンスの中で、喫煙習慣を付けないよう説明し、各喫煙所に禁煙相談・禁煙外来の案内を掲示している。
- ・ 禁煙啓発セミナーを実施している。（新型コロナウイルス感染症の蔓延に伴い、現在は開催を見合わせている。）

提言4-1 東工大メールニュースのパーソナライズ化

提言

1. 東工大メールニュースにおける言語を、学生が教務 Web システムに登録されている言語のみ表示するように設定すること。

対応策・実施方法

教務 Web システムを日本語で使用している学生へは日本語で、英語で使用している学生へは英語でメール配信する機能を備えておりますが、全学生向けのメールは日英併記を原則としているので、今後も従来どおり日英併記で配信します。

提言4-2 東工大ポータルにおける不便な点と対策

提言

1. 東工大ポータルにおけるアイドルタイムアウトが短いため、最大値を延長すること
2. 東工大ポータルにおけるログインの不具合が多いため、原因究明を行うこと

対応策・実施方法

【1について】

- ・ アイドルタイムアウトの時間は情報セキュリティ確保の上でも重要なので、あまり簡単に延長を許すことはできません。そこで、東工大ポータルログイン後メニューにおいて、アイドルタイムアウトを無効化するwebアプリを提供することを現在計画中です。このwebアプリを起動している間は、アイドルタイムアウトしなくなります。利用については「自己責任」となります。但し、このwebアプリは、情報セキュリティなども考慮して、学内ネットワークに接続している間しか利用できない仕様となっています。学外においては、利用したいサービスにアクセスした状態で待機して頂ければ、ポータルがアイドルタイムアウトしても、サービスは継続して利用できると思われま（各サービス側のタイムアウトに依存）
ご理解・ご協力頂ければ幸いです。

【2について】

- ・ 具体的な状況や情報を沿えてITサービスデスク (helpdesk@gsic.titech.ac.jp) にご相談下さい。但し、個人の端末や利用しているネットワークについては、こちらでは把握できない情報も多いので、必ずしも十分な原因究明ができない場合もあることを申し添えます。また、皆様からの質問に対応しているスタッフもそれほど多い人数で対処しているわけではないことも、ご理解頂ければ幸いです。

提言の文面にはありませんが、ポータルログイン等についての学生の皆さんからの意見が多かったことに鑑み、現在のOTPに代わり、携帯端末のアプリを用いた時間ベースのOTPの提供を現在計画中です。これを利用すると、これまでよりも東工大ポータルへのログインの利便性が向上することと、同時に、より高度なセキュリティの確保にもつながります。

東工大ポータルログイン後のメニュー表示については、教職員からも変更要望の声があり、検討の結果、この度、以下、全面的に見直すことにいたしました。

- ① 利用する頻度の高いメニューを上部に
- ② サービスに応じて、グループ分けも変更
- ③ 券種によるメニュー表示の違いも考慮
- ④ Dynamic Menuの導入（スライドウィンドウによるメニュー表示）

提言4-3 OCW における利便性改善

提言

1. 画像の見直しをはじめとした、東工大 OCW トップページ改修を実施すること
2. 検索機能の UI・性能改善。デフォルトを「講義検索」に設定し、「サイト検索」や「教員検索」を詳細設定に変更すること

対応策・実施方法

東工大OCWトップページ改修につきまして、技術的には可能かと思われませんが、改修する費用がかかる可能性があります。費用対効果を含めて検討したいと考えております。

また、検索機能につきましては、既存の汎用的な検索エンジンを使用しているため、改修は困難と思われれます。独自開発も視野に入れ、こちらも費用対効果を含めて検討していきます。

提言4-4 教務 Web システムの改善

提言

1. オンライン環境の充実に向けて、教務 Web システムのサーバー強化、および成績閲覧等のサイト混雑解消のための学籍番号ごとの開示・学部ごとの開示・専門科目文系科目ごとの開示をする等の施策を実施すること
2. 教務 Web システムのメンテナンス時間を変更すること

対応策・実施方法

- ・ システムサーバ強化については、まずは老朽化したハードウェアの更新を優先的に考えております。更新時に予算の範囲内での強化は検討します。
成績閲覧時等のサーバ負荷軽減につきましても、運用面で検討します。
- ・ 教務Webシステムのメンテナンス時間ですが、授業開始前に開放するように2021年4月に変更しました。もう少し早い時間に開放してほしいとのご要望もございましたが、データ移行や人的なエラーチェック作業を行う必要があるため、現状の体制では、現在の開放時間をさらに繰り上げることは不可能です。

提言4-5 サークル施設利用予約の方法改善

提言

1. 利用しないにもかかわらず施設利用予約を行なった団体に対してペナルティが設けられていること、また実際に違反が確認されペナルティを課せられた団体があることを全団体に周知すること（予約サイトで常に目に入る形で）。
2. 完全な先着順ではなく一定期間予約をプールし、必要に応じて抽選などによる利用権の確定を行うこと。
3. 定期的にご利用する団体に対しては利用枠（時間帯・利用施設固定）を設けることで、他団体に対して別日程での利用を促すこと。

対応策・実施方法

基本的には、課外活動施設予約も今年の6月分の予約からWEB上で予約が出来るようになったことで、ある程度改善されているので様子を見て欲しい。

ただし、どうしても課外活動の頻度等より公認サークルの予約が優先され、非公認サークルもしくは個人利用の優先度は低くなってしまいうことについては、ご理解いただきたい。少なくとも課外活動施設管理予約では、利用しない場合にはすぐにリリースをしてもらい、調整して他団体が利用している。ペナルティは課していない。

提言4-6 T2SCHOLA の機能改善要望

提言

1. T2SCHOLA に、TA 向けの管理者権限を付与できるようにすること
2. 今後講義で T2SCHOLA を用いる先生方は、T2SCHOLA の改善点や新しく欲しい機能などについての学生の意見を随時確認すること

対応策・実施方法

T2SCHOLAにおけるTAの権限については、検討中です。

提言4-7 東工大公式アプリの開発

提言

1. 東工大ポータルへの自動ログイン機能
2. 時間割、休講/補講情報、シラバス、大学からのお知らせの閲覧等のポータル機能
3. T2SCHOLA の e ラーニング機能、もしくは T2SCHOLA へのリンク

対応策・実施方法

現時点で東工大公式アプリ開発の計画はございません。

2022年度より、T2SCHOLAでシラバス情報の閲覧が可能となります。

提言4-8 遺失物管理のオンライン統一システムの構築

提言

1. 遺失物管理をオンライン化すること
2. 東工大生だけではなく教職員や外部の人にも本学で発生した遺失物を検索、閲覧できるような Web サイトを導入すること

対応策・実施方法

学勢調査提言を受けて、5月に遺失物オンラインシステム構築に向けたチームを編成した。まずは、これまでの各キャンパス毎の対応を大学として統一した対応にするため、関係法令を基に警察とも相談しながら要項を作成中（6/30現在）。要項が策定されれば、本学HP内に専用ページを作成する。掲載場所・掲載方法等については、広報課とも相談して検討中。全ての準備が整えば学内周知を行い、今年度末までに運用を開始する予定。

提言4-9 トレーニング施設等の情報集約サイトの開設

提言

1. より詳細な施設情報と利用方法について記された情報集約サイトを新設することで施設を利用しやすくすること
2. 学生の目線に立った、情報へのアクセス手段を用意すること（Web ページのできるだけ浅いレイヤーに情報一覧を用意することで、情報へのアクセスに必要なプロセスの削減を目指す

対応策・実施方法

以前にも提言にあり、HPの学内の課外活動施設案内へのレイヤーを改善した。現在の在りかは以下のとおり：

東工大トップページ→ 在学生の方→ 施設利用→ 課外活動施設

提言4-10 卒業・修了に必要な単位を確認できるシステム作成

提言

1. 卒業に必要な単位を確認できるシステムを作成すること

対応策・実施方法

- ・ 学士課程については、現状すでに教務webシステム上で「系所属要件」、「学士特定課題研究申請・卒業要件」を確認いただくことができます。学修案内の所属系の課程に掲載されている付表中の◎や○も、システム上の卒業要件等で確認することができます。ただし、一部の系は理工系教養科目を系の卒業要件として設定している場合などがありますが、それらの個別ルール全てを教務webシステムに組み込むことは困難であるため、「系によって取扱いが異なりますので、入学年度の『学修案内』で所属系の課程を確認して下さい」と注意書きをしています。なお、入学時にご説明しているとおり、学士課程の学修における最も正しい指標は学則及び学修規程に基づき記載されている「学修案内」であることを改めてご理解ください。教務webシステムに卒業要件を確認できるシステムが搭載されていたとしても、最終的には「学修案内」に立ち返って確認する必要があります。また、卒業等の最終判定は系で行うので、指導教員や系主任にも確認が必要かと考えます。
- ・ 大学院課程については、今後、学士課程と同様、教務Webに修了要件に必要な単位に対して現在どのくらいの単位が取得できているか分かる仕組みを実装予定です。ただし、振替科目もあるので、学修案内を元に学生自身で確認いただくとともに、修了の判定はコースで行うので、指導教員とコースでの確認も必要かと考えます。

提言4-11 電子書籍の蔵書増加と利用促進について

提言

1. 電子書籍の蔵書を増加させること
2. より多くの学生へ告知をすること
3. 学生に電子書籍を利用したいと思わせるための施策をすること

対応策・実施方法

海外電子書籍は数年前から導入を促進しており、昨年度からは国内電子書籍の購入にも注力しています。2021年3月末現在、本学で利用可能な電子書籍は30,999冊（うち国内書籍1,099冊、海外書籍29,900冊）となっています。今年度も授業用図書や教員推薦図書は電子書籍を優先して購入を進め、海外電子書籍のトライアル等を実施しています。電子書籍の広報については、Webへのお知らせ掲載（大学公式ページ、図書館ホームページ）、Face Book・Twitterへの投稿、東工大メールニュースへの掲載を行っています。また、利便

性を考慮し、図書館ホームページの「東京工業大学電子ジャーナル・電子ブックリスト」や蔵書検索からも利用可能となっています。これ以外にも学生のみなさんに届く有効な広報手段、ツールについてご提案いただければ、ありがたいです。

提言4-12 図書の貸し出し・返却サービスの継続と拡充

提言

1. 新型コロナウイルスの流行が収まった後も郵送貸し出し・返却サービスを継続すること
2. 学生が予約した本を田町キャンパスで受け取れるようにできるシステムを構築すること

対応策・実施方法

- ・ 新型コロナウイルス感染状況が継続している状況を踏まえ、令和3年度も郵送貸出・郵送返却を継続しています。より柔軟に活用いただけるようサービス内容をリニューアルしました。
- ・ 現状は、田町キャンパスにご所属の方も、郵送貸出・郵送返却をご活用いただくことが可能です。田町キャンパスにご所属の方の需要の調査については検討します。

【参考】

【学内の方へ】郵送による資料貸出サービスの実施について（2021年度）

<https://www.libra.titech.ac.jp/info/news/20210331>

提言4-13 生協での決済方法の多様化

提言

1. 生協食堂と生協購買部において、PayPay および LINE Pay 等の QR コード決済を導入すること

対応策・実施方法

大学生協の決済方法に、「PayPay および LINE Pay 等の QR コード」を決済するシステムは持ち合わせていません。そのため、東工大生協単独で対応するには、手作業による、会計上の処理「売り上げと入金を一括させる作業・手数料コストの負担・負担分の会計仕訳」と、新たなコスト作業負担が発生します。コロナ禍で経営状況が大変厳しい中、新たなコストを発生させる余裕はなく見合わせるべきと考えています。生協では「クレジットカード」「学食パス」「交通系ICカード（PASMO等）」「タッチ決済、コンタクトレス決済」「iD」「QUICPay」にご対応しており、その範囲内でのご利用をお願い致します。

提言4-14 留学手続きのペーパーレス化

提言

1. 押印に代わる電子決済システム、特に電子署名の導入

対応策・実施方法

2021年度秋冬ごろから電子決済機能を含む留学手続きオンラインシステムをテスト運用し、2022年度4月から本格的にシステムを稼働予定。